

# カンパニー ナウ COMPANY 第1009回 NOW!

## グローバル・アドバンス

— 御社のセキュリティは大丈夫ですか？

今回紹介する(株)グローバル・アドバンスが開発したセキュリティシステムは、パソコンログイン時にICカードもしくは携帯電話(スマートフォン)があれば、防犯と情報セキュリティ、入室管理が同時にできるという。

「一般的に、パソコンログイン時にはIDとパスワードを入力するが、当社のセキュリティシステム『SAゲートシステム』では、それらを入力するかわりにカードリーダーにカードを置くことでログインができます。そのカードとユーザーの個人情報および位置情報を関連付け、入室できる人のみが特定のパソコンにログインできる仕組みになっています。すなわち、パソコンのログインと入室管理が同時にできるのです。また、どのファイルを使用したかの履歴もサーバーで管理できます」(大野社長)。「今までこのようなシステムはありませんでした。特許も出願中です。データ入力作業の外注化や、さまざまな雇用形態の社員が出入りする企業にとって、企業の情報流出リスクは年々高まっています。そのため、内部統制を厳しくする必要があり、このシステムは情報漏洩防止、防犯、社内外管理に役立ちます」と大野社長は語る。このシステムは24時間体制のコールセンターを持つ企業、冠婚葬祭業者など多くの企業で採用されているという。

また、ICカードのほか、携帯電話(スマートフォン)のGPS機能を利用して、パソコンを管理するシステムも開発。事前に登録しておいた携帯電話を身に付けてパソコンに近づくとログインされ、離れるとロックされる。再度、携帯電話を近づけると先ほどの画面が表示される。さらに、携帯電話とパソコンがサーバーとつながっているため、本人の居場所がパソコンの所在地となり、位置情報と使用履歴などが蓄積できる。「携帯電話の番号は世界で一つであり、本人が身に付けているものですから、パソコンログインを規制でき、盗難や情報漏洩のリスクが抑えられます」(同社長)。パソコンにログインできるエリアを限定することも可能で、

「我々はお客さまの「扉の管理」をしているのです」と語る大野和人社長



GPS機能を活用して位置情報を合致した場所でのみ使用可能とすることもできる。

「これらのシステムはすべて自社開発しているため、カスタマイズに臨機応変に対応できます」(同社長)

こうした技術が評価され、大手電機メーカーと組み、入室管理と工程管理が連動できるという高度で難しいシステムの開発にも成功。世界的に医学研究実績で注目されている京都大学のiPS研究所においても採用されており、当社の活躍ぶりが伺える。

今まで開発してきたシステムがあらゆる業界で導入されている背景には、大野社長の「人とのつながりの大切さ」という意識が影響しているようだ。それは、今まで携わってきた人々との信頼関係を大切にしているからこそ、当社の技術が多くの人に伝わり広がっているのであろう。大野社長は「我々は技術面の信用が第一であり、その根底には着実に技術を蓄積し、何事も堅実に無理せずやっていくことが大切だと考えています」とも言う。

しっかりした地固めをしているからこそ、高度な技術が開発できるのであろう。ますますの発展に期待がかかる。

(取材・文/東京支社情報部 大森 純子)

### 会社概要

(株) グローバル・アドバンス

企業コード：981494025

東京都中央区入船3-7-7、電話03-5543-3682

大野和人社長

設立：2004年2月、資本金：1000万円

事業内容：セキュリティシステム開発・販売、ソフトウェア開発

年収高：約1億5500万円(2009年12月期)

従業員：12名

<http://www.g-advance.co.jp/>